

赤羽 堯(あかばね・たかし)

1、プロフィール

小説家。元特務機関員のゴビ砂漠冒険行を描いた「スパイ特急」(昭和54年)でデビュー。「脱出のパスポート」等、国際的スケールのスパイ小説の有力な書き手の一人。

<生没>

1937(昭和12)年8月26日 ~ 1997(平成9)年1月22日

<代表作>

「スパイ特急」

「脱出のパスポート」

「悪魔の劇場」

「復讐、そして栄光」

「チンギス・ハーン英雄伝」

<青森との関わり>

弘前市に生まれ、高校時代まで弘前市に過ごす。

2、作家解説

小説家。昭和12年弘前市生まれ。本名庄司英樹。弘前高校から明治大学文学部弘文科へ進む。昭和35年同大学卒業時に恋人を交通事故で失い、諸外国へ放浪の旅に出る。昭和45年米コロンビア大学に留学し翌年帰国した。一時シャンソン歌手として活躍したり、海外の小説の翻訳も手がけた。週刊誌記者時代を経て『スパイ特急』(昭和54年)で作家としてデビュー。黄金を求めてモンゴルに潜入する元特務機関員、坂主啓也の冒険行を描く。坂主啓也は『悪魔の劇場』(昭和60年)にも登場。商社マンの子供誘拐を扱った秀作。以後の作品に日本商社が登場することになる。世界に類のない企業形態の総合商社である。『脱出のパスポート』(昭和61年)の丸菱商事などその例である。『死の太陽を射て』(昭和55

年)『謀略の黒い海』(昭和 56 年)『魔弾の射手』(昭和 57 年)『琥珀のエロイカ』(昭和 58 年)『裏切りの墓標』(昭和 60 年)『ソフィアからの密使』(昭和 61 年)『死を讃え森に潜め』(昭和 63 年)『復讐、そして栄光』(平成2年)と、推理、活劇、ドキュメンタリーと多種多彩である。小説の味つけこそ異なるが、国際的スケールのスパイ小説群である。ヨーロッパをよく知り、生活したことがなければ表現できないような箇所が自然描写に限らずちりばめられている。「脱出のパスポート」もそうであるが「裏切りの墓標」の東ドイツやドイツ人の描き方にそれが感じられる。やはり作者の若い頃の体験が大きく作用していると言えよう。『古都鎌倉殺人事件』(昭和 59 年)『優雅なる探偵鎌倉に死す』(昭和 61 年)のような作品もあるが、やはりスパイ小説の要素がみられる。モンゴル帝国を素材に選んだ『カラコルムの悲劇』(昭和 56 年)『チンギス・ハーン英雄伝』(平成4年)のような歴史小説の書き手でもある。『秘本東方見聞録』(平成3年)や最新作に『流沙伝説』(平成6年)があり、異色作として、医学パニック小説『危険度は4』(昭和 55 年・書き下ろし長編)をあげておきたい。

3、資料紹介

○『脱出のパスポート』

図書

1986(昭和 61 年)11 月

190mm × 135mm

文芸春秋より発行の長編スパイ小説。昭和 61 年下半期(第 96 回)直木賞候補作品。昭和 50 年代のスパイ小説ブームは、国際経験のある作家が資料を駆使、国際謀略絵巻を描く点に特色があった。直木賞は逸したが、赤羽堯と日本のスパイ活動が初めて評価された作品。